

磐田を 知りたい！ 調べたい！

磐田の民俗信仰

民俗信仰には、神社や寺院との関わりがあるものや地方独自に伝わる民間信仰があります。ここでは、市内でかつて行われた、また、現在も行われている信仰を取りあげます。

なお、『静岡県民俗地図』（昭和 53 年（1978）刊行）では、県内の様々な民俗行事の分布が網羅されていて参考になります。

1. 庚申信仰（こうしんしんこう）（庚申待ち）

干支の組み合わせで、ほぼ 2 か月に一度、庚申の日が巡ってきます。その日かその前の都合の良い日に、当番の家に集まり、夜を徹して語り明かします。これは、人間の中に居る「三尸（さんし）の虫」がその日の夜、天帝（閻魔大王）にその人の悪事を告げに行くこととされることから、体内から出させないように皆で朝まで寝ずに語らうというものです。

庚申講の本尊である青面金剛（しょうめんこんごう）の掛け軸を掛け、「南無青面金剛童子」と唱えます。

今では行っているところも少なくなっていますが、形を変えながらも続いているところもあります。遠州地方では、浜松市浜北区宮口の庚申寺が信仰の中心となっています。

なお、3 年間 18 回続けた記念として庚申塔が作られ、各地区に残っているところもあります。

『磐田の民俗』、『遠州地方の庚申塔・庚申信仰』、『福田町史 資料編 民俗』 p 283～

2. 地の神祀り（おしやがみさま）

宅地の西北隅（いぬいづま）に小さな祠（ほこら）が置いてあるのをよくみかけます。これは地の神さまと言って、通常その家主が亡くなって 50 年経つと土地の守り神となることから祀（まつ）られます。

新屋（しんや）（分家）には無いと言われます。分布も県内西部が主体で、東部にはありません。遠州地方特有の風習とも言えます。

『豊田町誌 別編Ⅱ 民俗文化史』、『磐田の民俗』ほか

3. 秋葉講（あきはさん）

火防（ひぶせ）の神とされる「秋葉三尺坊大権現」。火を扱う「台所」にこのお札を貼っているお宅は多いはずです。明治時代の神仏分離令で、秋葉神社が山頂に造られ、火の神「迦具土（かぐつち）の神」を祀り、秋葉山秋葉寺（しゅうようじ）と分離させました。その後、ご神体は袋井市の可睡斎（かすいさい）

へ移しています。

江戸時代には、秋葉参り（詣で）と言って秋葉山に参詣する道が各地に作られました。これを秋葉道と呼び、また、この道を安全に通過する案内役を秋葉灯籠が果たしています。

『秋葉信仰の根源 三尺坊』、『豊田町誌 通史編』
『福田町史 資料編 民俗』 p 285～289

4. その他の信仰

『磐田の民俗』、『豊田町誌 民俗文化史』、『福田町史 資料編 民俗』、『豊田町誌 通史編』が参考になります。

○太子講

聖徳太子の命日（2月22日）に行われます。大工、桶屋、畳屋などの職人の間で信仰されています。法隆寺や四天王寺などの巨大建築に携わったことによるものです。

○道元講（梅花（ばいか）講）

遠州地方では曹洞宗寺院が8割を占めると言われます。
両祖・道元、瑩山（けいざん）禅師の命日が太陽暦でともに8月28日にあたることから、供養の膳を準備して法要を行ないます。『福田町史 資料編 民俗』 p 290 ほか

○春埜（はるな）講

春埜山大光寺で祀るお犬様を信仰する講で、山犬信仰にあたります。
山犬（オオカミ）は畑を荒らすイノシシを追い払ってくれることから、農業の守り神として信仰されたようです。『福田町史 資料編 民俗』 p 289 ほか

○線香焚き

6月1日の早朝、通りに面した軒先に、イチジクの葉を二枚重ねて、その上に一把の線香を立てます。倒れないように小石を周りに置いて支えます。線香を焚いて合掌して、無病息災を念じます。この行事が行われているのは、旧東海道沿いの家々であることから、その昔、生き倒れになった人々の供養を行なったからという説や、道の東西から疫病が流行らないための魔除けだという説もあります。

このほか、大峰講、百万遍念仏講など多くの信仰行事があります。これらは上記の市史、町史、村誌などで知ることができます。

『福田町史 資料編 民俗』 p 290（大峰講） p 291（百万遍念仏講） ほか

このほか、詳細にお知りになりたいときには、レファレンス（相談）カウンターまでお尋ねください。